



会派清新
東 元 勝 己

災害時における自治体の炊き出しについて

質問 災害時における自治体からの被災者への炊き出しについて、事前に量や栄養を考慮した食材の種類を定めているかを伺う。

答弁 災害時における炊き出しについては、特に中長期的な避難生活之余儀なくされるような大規模災害時の被災者への食生活面での支援において、東日本大震災の際の避難所での食事に関して栄養が十分でなかったなどの指摘があったことなどの例も踏まえ、いわば二次災害ともいえるべく事態を生じさせない工夫が必要であると言われています。

しかしながら、避難所で提供する食事の内容について栄養量やバランスに配慮することをあらかじめ定めておくとした場合、同時にそれに見合った食材などの備蓄あるいはそうした事態下での調達ルート確保が必要不可欠である

ことから、避難所で提供する食事について、想定する災害の規模などにも左右される面もあり、量の充足とともに質の確保をどこまで追求できるかは、あらかじめ想定が難しい部分があります。

現状、本市がみずから備蓄する食料については、常温での長期保存が可能な品目を一部保有していますが、仮に避難生活が中長期化する場合には、早急に国や北海道などへの支援要請を行うことに加え、さまざまな団体や事業者などと締結している協定（52団体と締結）に基づき、できる限りの食材などの提供について協力要請により対応することになります。

なお、避難生活が長期化に至らない場合の食料についても、基本的には市民の皆さんに日頃からの災害に備えてみずから準備いただくようご協力をお願いしているところですので。そうした状況下で避難所において提供する食事については、量とともにいかに質を確保していくか、全国の先進自治体の取り組みなどについて情報収集を進め、今後に向けての参考になりたいと考えています。



会派清新
荒 木 文 一

新型コロナウイルス感染者の北海道からの情報伝達について

質問 新型コロナウイルス感染者が滝川市在住の場合、北海道から患者情報が伝達されるのか伺う。

また、クラスター化、企業や団体の自主的な公表の場合も同様な扱いとなるのか、さらには市内民間病院で発生したケースは、医療機関から市に直接連絡などがなされるのか伺う。

答弁 北海道では、個人情報の保護などに十分留意した上で積極的に公表することとしており、原則として本人が居住地の公表を了承した場合に限ります。その場合、保健所を通じて市の対策本部に連絡が入ります。また、市が所管する公共施設において感染が判明した時は、施設の閉鎖、消毒などの迅速な対応が必要なことから、直接所管に連絡が入ります。

クラスター発生などのケースについても同様で、行政検査の結果

として陽性と確定した場合、北海道が情報を把握していますので、患者が居住地非公表を希望すれば当該市町村への連絡はないと考えています。

市立病院の躯体に係る長期的な支出想定について

質問 新病院開設から10年を迎え、屋上防水、壁面、免震装置の更新など、償還までに想定される大きな支出について伺う。

答弁 新病院については、改修費などのメンテナンスに要する経費が抑えられるよう設計、施工されています。屋上防水については25〜30年の耐用年数を見込んでおり、改修が必要となれば現在の単価で約1億円程度の支出が想定されます。壁面は経年劣化が少ない仕様となっており、改修工事は予定していません。免震装置については、大きな地震に遭遇しなければ建物の耐用年数と同様と考えています。

しかしながら、長期にわたっては想定外の改修が発生する可能性がありますので、メンテナンスにより病院事業会計の負担軽減に心掛けていきます。